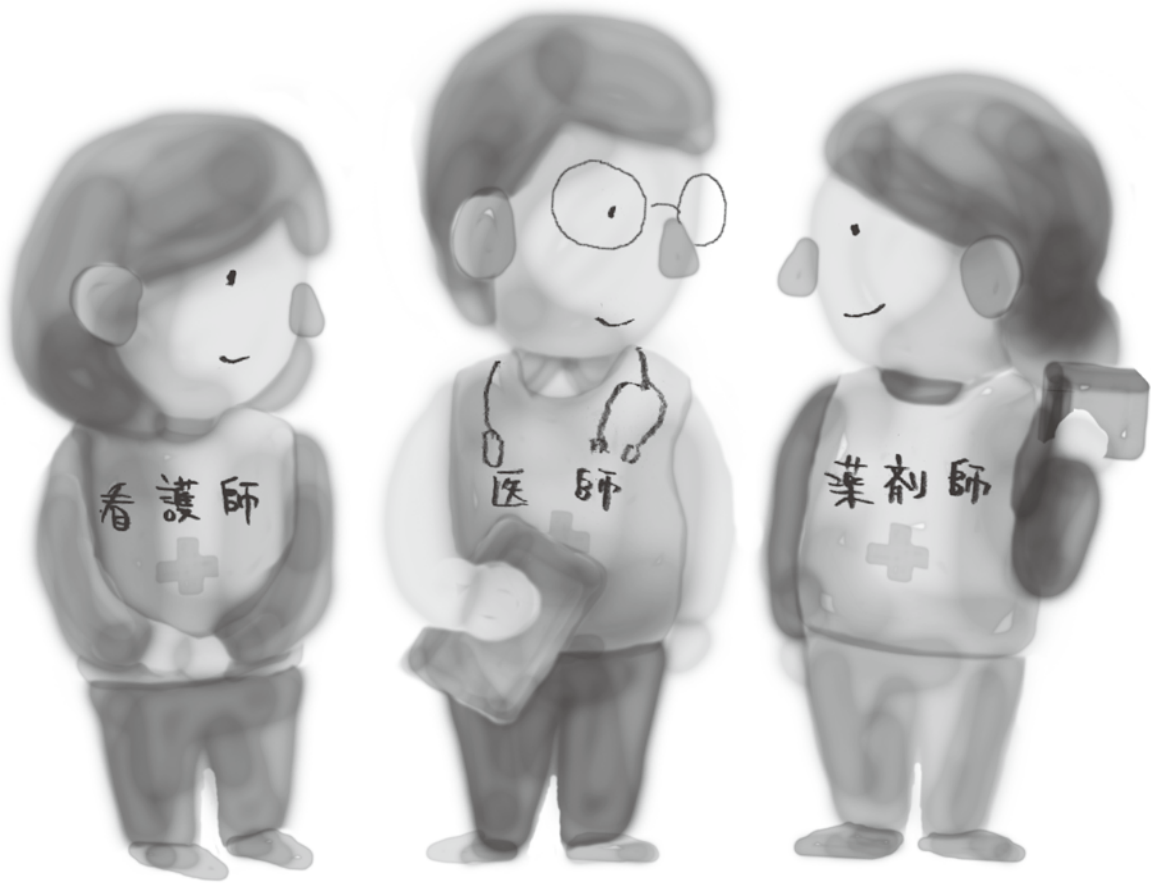


医療チームには薬剤師も加わり、被災地の医療活動を支援しました。



医師と被災者との間で活躍する薬剤師たち

日本薬剤師会では、東日本大震災が発生した昨年3月11日、直ちに災害対策本部を立ち上げ、被災地へ継続的に薬剤師の派遣等を行ってきました。その実人数は計2062人、延べ8378人※に上ります。

薬剤師は被災地で医薬品の仕分け・管理をはじめ、救護所や仮設診療所等における被災者への調剤、服薬説明などを担当。

さらに、医療チームの一員として、処方支援や代替医薬品の選択、被災者からの医薬品の相談対応など多岐にわたる活動をしています。

※平成23年7月11日現在の人数となります。

チーム医療によりさらに質の高い医療を

また、被災地で患者が診察を受ける前に、薬剤師が症状等を聞き、必要に応じて一般用医薬品を供給することで、

医療チームのスムーズな診察を可能にしました。

医師から交付される処方箋は、多種多様なため、

医薬品が限定される被災地では、薬剤師による

同種同効の医薬品選別や処方設計の提案が求められました。



◎平常時においても、医師、薬剤師、看護師をはじめとした医療専門職がそれぞれの専門性を生かし、分担・連携することで質の高い医療が実現します。